

昭和十二年八月

惠須取港ニ就テ (第壹報)

御批判ヲ乞フ

真田秀吉様

囑託 木津 正治

12/10/26

惠須取港ニ就テ

惠須取港ニ就キ、先般來現地視察ノ上、各方面ヨリ得タル資料ニ依リ、調査研究ヲ致シマシテ、漸ク別圖ノ如キ一試案ヲ得マシタガ、其ノ大要ハ左ノ通りデアリマス。

(一) 水面積

外 港	二、一八九、〇〇〇、 平米	(六六三、〇〇〇、坪)
第一船 澗	一二四、〇〇〇、	(三八、〇〇〇、)
第二船 澗	一一三、〇〇〇、	(三四、〇〇〇、)
木材取扱場	一四三、〇〇〇、	(四三、〇〇〇、)
計	二、五六九、〇〇〇、	(七七八、〇〇〇、)

水面積ハ小椽港ノ約半分、釧路港ト殆ンド同等デアリマス。

(二) 埋立面積

總 計	七八一、〇〇〇、 平米	(二三七、〇〇〇、坪)
-----	----------------	-------------

(三) 同時繫留船

(4) 接岸繫留

八千噸級	六隻
六千噸級	九隻
三千噸級	六隻
小計	二十一隻

(二) 浮標繫留

八千噸級	一隻
六千噸級	三隻
三千噸級	一隻
小計	五隻
合計	二十六隻

少シ無理ヲシテ水面ヲ使用シマスレバ、更ニ多數ノ船舶ヲ收容シ得マスガ、前記ハ充分ニ餘裕ヲ採リタルモノデアリマス。

(四) 荷役能力

石炭	一〇、〇〇〇、〇〇〇、噸
木材	一五〇、〇〇〇、

雜貨

計 二、〇〇〇、〇〇〇、
一二、一五〇、〇〇〇、

(五) 工事費 (概算) (陸上設備費ヲ含マズ)

俸給及事務費	一、六〇〇、〇〇〇、圓
防波堤費	一、六八〇、〇〇〇、
岸壁、荷揚場及護岸費	四、九五〇、〇〇〇、
棧橋費	二、〇〇〇、〇〇〇、
埋立及浚渫費	四、一九〇、〇〇〇、
機械器具費	四、一六〇、〇〇〇、
工場設備其ノ他	四二〇、〇〇〇、
計	二九、〇〇〇、〇〇〇、

概略右ノ通りデアリマスガ、之ヲ第一期、第二期、及第三期ノ三ツ位ニ區分シテ施工然ルベシトモ思ツテ居リマス。

諸テ、右ノ様ナ試案ヲ得マシタガ、之ハホンノ中間報告トシテ一應取纏メタルモノニ過ギマセンノデ、更ニ調査研究ヲ要スル點ガ多クアリマス

カラ、之ヲ

豫備調査

本 調 査

ノ二ツニ分類シテ、其ノ主ナルモノヲ次ニ申シ上げマス。

豫備調査

惠須取港ノ修築ニ當リテハ、先ヅ以テ次ノ調査ヲ行フ必要ガアルト存ジマス。

第一問 石炭ハ現在ハ解氷使用シテ積出シテ居ルガ、此ノ作業ハ夏季ハ甚シキ困難ヲ感ゼザレドモ、冬季ニハ結氷等ノタメニ、實行全ク不可能デアアル。斯ルガ故ニ其ノ間ノ出炭ハ全部原地ニ於テ貯炭ヲ要スルノミナラズ、需要先ニ於テモ亦、冬季ノ供給不足量ダケヲ、豫メ貯炭シテ置ク必要ガアルノデ、二重ニ手間ヲ要シ且ツ亦、冬季單價ノ高キトキニハ出炭シ得ズシテ、其レ以外ノ安キトキニノミ出炭スルノデハ、營業上損失スル處尠クナイカラ、是非冬季ニモ積出シ得ル港ヲ造ツテクレトノ、炭礦側ノ御希望デアリマス。之ハ誠ニ御尤モト存ジマス。

然シ、海上ノ船運賃ハ冬季ハ夏季ノ五割高ダトノ事デアリマスガ、此ノ原因ハ、

(イ) 冬季ニハ途中ノ航海ガ流水其ノ他ノ爲危険尠カラザルコト
(ロ) 惠須取港ニ何等ノ設備ナキコト

此ノ二ツノ欠陥ニ歸スベキモノト存ジマス。惠須取港ニ築港シマスレバ、(ロ)ノ欠陥ハ之ヲ解消シ得マスガ、(イ)ノ欠陥ハ人力ニテハ如何トモ致シ難イト存ジマス。ソウシマス、惠須取港ニ築港シマシテモ、冬季ノ船運賃ハ夏季ノモノト同等迄ハ低下セズ、矢張り二乃至三割高デハナイカト思ハレマス。此ノ運賃高ヲ忍ンデモ尙冬季ノ出炭ガ強行セラルルデアロウカ、ココニ尠カラザル疑問ガアリマス。萬一此ノ運賃高ノ爲ニ、冬季ノ惠須取港ヘノ出炭ガ抑制セラレル様デシタラ、港ノ修築ハ其ノ大半ノ意義ヲ失フコトニナリマス。

此ノ問題ハ目下境技師殿ニ御調査願ツテアリマス。

第二問 惠須取港及其ノ附近ニ於ケル石炭積込賃ハ現在、噸當リ九十錢トノコトデアリマス（之ハ餘リ安過ギルノデ再調ヲ要スルカト存ジ

マス)。今、積込作業ヲ機械化シマシテ、其ノ積込賃ハ何程ニナルカト申シマス。最近完成シタ、小樽及室蘭ノ新設備ノ積込賃ハ、如何ナル事情ニヨルモノカ、未ダ決定ニ至ラヌ様デスガ、十錢乃至二十錢ノ間ニ定マル様デアリマス。大連ノ甘井子ニ於ケル石炭棧橋ノ積込賃ハ四十三錢デアリマス。即チ安クテ十錢、高クテ四十錢ト思ヒマス。ソウスルト、現在ノ積込賃トノ間ニ僅カニ五十錢乃至八十錢ノ差違ガアルニ過ギマセン。之レダケガ鐵道ノ輸送賃ニ掛ケ得ル譯デアリマスカ、之レデハ僅カノ距離シカ運送シ得マセンカラ、近距離ノ石炭ハ惠須取港ニ集マリマスガ、遠距離ノ石炭ハ鐵道運賃ヲ嫌ツテ、惠須取港ヘハ出炭セズ、自分ノ海岸ヨリ積出スカト存ジマス。ソウシマスレバ惠須取港ニ集マル石炭ハ餘リ多量デナイカモ知レマセン。撫順ノ石炭ハ大連港ニ、筑豊ノ石炭ハ若松港ニ出ルヨリ外ニハ絶對ニ途ガアリマセン。然ルニ當港附近ノ炭礦ハ、夏季ハ各自ノ海岸ヨリ出炭シ得ルガ、唯冬季ダケ困難ヲ感ジテ居ルニ過ギマセンカラ、港ヲ必要トスル程度ハ撫順或ハ筑豊ノ炭礦ノ様ニ絶對的デアリマセン。

右ノ問題モ亦、境技師殿ニ目下御調査ヲ願ツテアリマス。因ニ舁ヲ使用シテ石炭ヲ積出ス現在ノ方法ハ、相當ニ困難モアリ、又經費モ掛リマスカラ、之ハ止メテ、其ノ代リニ、炭礦ノ沖ノ海中ニ「ドルフヒン」ヲ打チ、之ニ石炭船ヲ繋留シ索道ヲ使用シテ海岸トノ連絡ヲ取レバ、直接ニ、シカモ容易ニ、石炭ヲ積ミ出シ得ルノデハナイカト言フ腹案ヲ自分ハ有シテ居リマス（別圖一沖掛リ石炭積込設備圖参照）。

此ノ案ハ專業ヲ擔當シテ居ラルル方面ノ御意見ヲモ承ラネバ、可否ノ程ハ直チニ申シ上ゲ兼ネマスガ、之レガ出來レバ、樺太全島ノ石炭ハ全海岸ヨリ容易ニ搬出シ得ルノデハナイカトモ思ツテ居リマス。第三問 惠須取港ノ附近ニハ、荒天ノ際ニ於ケル船舶ノ避難場ガナイノデ非常ニ困難シテ居ルカラ、當港ハ避難港トシテモ亦、修築シテクレトノ要望ガアリマス。之レハ誠ニ尤モナ事ト存ジマス。然シ避難港ノ最重要ナル要件ハ

常ニ何時デモ、入港シ得ベキコト、

デアリマス。憲須取港ハ夏季ノ避難港トシテハ極メテ良好デアリマスガ、冬季ハ氷ノ爲、時ニハ入港不可能ノ事モアツテ、前記ノ條件ヲ満足シ得ナイ場合ガ、或ハアルカモ知レマセン。

以上ハ石炭港及避難港トシテノ憲須取港ニ對スル見解ヲ述ベタノデアリマス。然シ、雜貨ノ港トシテハ又別問題ニナリマスガ、之レニ就テハ未ダ充分ニ考慮シテ居リマセン。

因ニ、樺太ノ港灣政策トシテハ

(イ) 各港ニ分散スルカ、或ハ

(ロ) 一港ニ集中シテ之レヲ充分ニ完全ナモノトナシ、奥地トノ連絡ハ

鐵道ニ依ル。

此ノ兩案ガアルト考ヘラレマスガ、是等ニ就テハ一應ノ調査研究ヲ要スルモノカトモ存ジマス。

附言

以上自分ノ所言ハ、何レモ憲須取港ヲ消極的ニ見タル傾向ガアリマス。元來自分ハ港ニ限ラズ、萬事ヲ消極的ニ見テ、積極的ニ斷行スル勇氣

ヲ欠イテ居ル男デアリマス。而シテ從來ノ自分ノ經驗ハ、多クハ自分ノ消極論ノ非デアツタコトヲ教ヘテ居リマスノデ、此ノ缺點ヲ是正セント努メテハ居リマスガ、イザ、意見ヲ立テルトナルト、ドウモ消極的ノ方面ヲ強ク見ルノテ困ツテ居リマス。其ノ邊ヲ含ンデ、本記事ヲ御一讀願ヒ上ガマス。

本調査

以上ノ豫備調査ノ結果、愈々憲須取港ヲ修築スルト決定シタ上ハ、更ニ次ノ本調査ヲ行フ必要ガアリマス。

第一問 北防波堤ハ

- (イ) 波浪ヲ防グコト
 - (ロ) 港内ヘ流水ノ侵入ヲ阻止スルコト、
 - (ハ) 港内ヨリ氷ノ流出ヲ妨ゲザルコト、
- 是等ノ觀點ヨリ氣象等ヲ調査シ、其ノ方向ナドヲ決定シタモノデアリマスガ、未ダ不充分ニテ更ニ研究ヲ要スルモノガアリマス。

第二問 南防波堤ニ就テハ、次ノ調査ガ必要デアリマス。

(1) 南防波堤ハ南西ノ波浪ヲ防グ爲ニハ其ノ方向ヲ北西ニ偏セシメネバナリマセン。然ルニ港内ヨリ水ノ流出ヲ妨ゲザル爲ニハ、却ツテ北東ニ傾ケル必要ガアリマス。此ノ兩條件ハ互ニ相容レザルモノデア
ルガ、何レヲ重要視スベキモノカ、未ダ自分ニハ判斷ガ付カズ、假
ニ中間ヲ採リテ、眞南北ノ方向ニ定メマシタガ、之レハ今後更ニ研
究シテ確定シタイト思ヒマス。

因ニ、惠須取及稻牛方面ノ海岸ハ、大体眞南北ニ走ツテ居リマスノ
デ、之レニ平行シタル防波堤ハ他日之レヲ南方ニ延長スルノニ便利
デアリマスカラ、此ノ意味ヲモ含メテ南防波堤ノ方向ヲ定メタノデ
アリマス。

(2) 港口及副口（南防波堤間ノ）ハ、氷ノ流出ヲ成ル可ク容易ナラシム
ル爲ニ、其ノ幅員ヲ過大ニ採リテアリマスガ、之レデハ波浪ヲ防グ
ニハ不充分デアリマセウ。其ノ間ノ調和ヲ如何ニスベキカ、今後ノ
研究ニ俟ツベキデアリマス。然シ的確ナ事ハトテモ判明シカネルト
思ヒマスカラ、先ヅ以テ過大ニ施工シ、其ノ實績ヲ参照シテ、或ハ

幅員ヲ狭クスルカ、或ハ他ノ方法ヲ講ズルカ、然ル可キ適當ノ策ヲ
立テルノガ尤モ賢明カトモ思ツテ居リマス。

(3) 南防波堤ハ専ラ南西ノ暴風ヲ防グ爲デアリマスガ、自分ノ本日迄ノ
調査ニヨレバ、惠須取港ニテ、南西ノ暴風ノ爲ニ荷役不能ニ懸テタ
例ハ從來餘リ多クナイラシクアリマス。ソウシマスレバ、此ノ防波
堤ハ必ズシモ必要デハナク、之レヲ削除シテモ敢ヘテ差支ガ無イカ
モ知レマセン。

元來、防波堤ト言フモノハ、莫大ナ工費ヲ要スルニモ拘ラズ、晴天
ニハ何等必要ノナイモノデアリマス。シカモ此ノ爲ニ、却ツテ港内
ヲ局限シテ、其ノ利用ニ不便ヲ與フルモノデアリマス。唯荒天ニ應
ズル爲、止ムナク造ルモノデアリマスガ、此ノ際ニ於テモ亦、防波
堤其ノモノ（殊ニ堤頭）ガ海難ヲ惹起スル誘因トモナルノデアリマ
ス。ソレデスカラ、防波堤ナルモノハ、之レガ無クテハ、船舶ノ碇
泊ガ絶對ニ不可能ダト言フ場合ニ限り、之レヲ築造スベキモノデア
リマシテ、然ラザル場合ハ決して築造スベキモノデアリマセン。防波堤ヲ欠クガ爲ニ

生ズル多少ノ困難ハ、之レヲ忍ベバ却ツテ他ニ於テ得ル處夥クナイノデアリマス。
右ノ様ナ譯デアリマスカラ、惠須取港ニ於テ南防波堤ガ無クテ濟メバ
工費ノ節約ハモトヨリ、氷ノ流出モ容易ニナリ、又港ノ水面モ非常ニ
廣濶ニナツテ、之レ位結構ナコトガナイノデアリマス。
尤モ、此ノ爲ニ生ズル困難ハ、本船ハ之レヲ忍ビ得マシテモ、舩ノ類
ハトテモ耐ヘ得マセンカラ、之レニ對シテハ、安全ナ船濶ヲ別ニ築造
セネバナリマセン。

南防波堤ノ要不要ヲ決定スルニハ、先ヅ以テ惠須取港ニ於ケル從來ノ
荷役不能ノ原因ヲ調査スルヲ以テ最モ良法ト認メマシタノデ、目下、
北日本汽船株式會社ニ依頼シテアリマス。此ノ調査ヲ檢討スルト共ニ
更ニ、氣象ノ研究ヲモ進メ且ツ又、營業者ノ御意見ヲモ承ツテ、斷案
ヲ得タイト思ツテ居リマス。

第三問 第一船濶ハ、之レニ接續スル土地ノ利用方法如何ニヨリテハ、
更ニ擴大シテモヨイカトモ思ツテ居リマス。

第四問 第二船濶ハ平磯間ノ深所ヲ利用シタモノデアリマスガ、其ノ形

ハ氷ノ流出ヲ妨グル惧レアリマスカラ、此ノ點調査研究ヲ要シマス。

第五問 木材取扱場ニ就テハ尙、研究ノ餘地アルカトモ思ツテ居リマス。

第六問 海底ガ堅硬デ淤滞及床堀ニ多大ノ工費ヲ要スル様デシタラ、防
波堤及埋立ヲ前進セシメタ方ガ却ツテ有利デスカラ、其ノ邊調査研究
ヲ要シマス。

以上

惠須取港平面圖（木津試案）

沖掛り石炭積込設備圖